

2015年1月1日～2025年12月31日の間に 当科において自己免疫疾患を合併した類もやもや病の診療を受けら れた方及びご家族の方へ

—「自己免疫疾患合併類もやもや病の実態調査 Autoimmune Investigation in quasi-Moyamoya disease Study (AIMS)」へのご協力をお願い—

本研究の内容は、研究に参加される方の権利を守るため、研究を実施することの適否について川崎医科大学・同附属病院倫理委員会にて審査され、既に審議を受け、承認を得ています。また、病院長の許可を得ています。

研究責任者 北海道大学 脳神経外科 教授 藤村 幹

1. 研究の概要

もやもや病とは、頭蓋内内頸動脈終末部が進行性に狭窄・閉塞して、一過性脳虚血発作や脳梗塞、脳出血などを起こす原因不明の疾患で、日本や韓国、中国など東アジア人に多いとされます。一方で、自己免疫疾患（膠原病とも呼ばれる）や脳腫瘍、髄膜炎などを合併している場合には、類もやもや病と呼ばれもやもや病と区別されていますが、その実態はよく知られていません。本研究では、自己免疫疾患に合併した類もやもや病の頻度や病態、予後などの実態を把握するために調査を行います。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

2015年1月1日～2025年12月31日の間に川崎医科大学附属病院および共同研究機関で自己免疫疾患（抗リン脂質抗体症候群、全身生エリテマトーデス、結節性多発動脈炎、顕微鏡的多発血管炎、シェーグレン症候群）と診断され、もやもや病に特徴的な血管病変（頭蓋内内頸動脈終末部の狭窄・閉塞およびもやもや血管の発達）を有する方を研究対象とします。

2) 研究期間

倫理委員会承認日～2030年3月31日

3) 研究方法

上記の研究対象期間に当院において自己免疫疾患に合併した類もやもや病の診断や診療を受けられた方で、研究者が診療情報をもとに、その頻度や病態、治療効果、予後などについて調べます。

4) 使用する情報の種類

患者情報：年齢、性別、家族歴、病歴、治療歴、予後、RNF213 遺伝子多型 など
画像情報：CT 画像、MRI 画像、血管撮影画像 など

5) 情報の保存

この研究に使用した情報は、研究の中止または論文等の発表から5年間、川崎医科大学脳神経外科学1教室実験室内で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。

6) 研究計画書および個人情報の開示

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。

また、この研究における個人情報の開示は、あなたが希望される場合にのみ行います。あなたの同意により、ご家族等（父母（親権者）、配偶者、成人の子又は兄弟姉妹等、後見人、保佐人）を交えてお知らせすることもできます。内容についておわかりになりにくい点がありましたら、遠慮なく担当者にお尋ねください。

この研究は氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、あなたの情報が研究に使用されることについて、あなたもしくは代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、2027年9月30日までの間に、下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者さんに不利益が生じることはありません。

<問い合わせ・連絡先>

川崎医科大学附属病院 脳神経外科

氏名：菱川 朋人

電話：086-462-1111 内線：27504（平日：9時00分～17時00分）

ファックス：086-464-1034

E-mail：thishi@med.kawasaki-m.ac.jp

<当院の問い合わせ・連絡先>

北海道大学病院 脳神経外科

氏名：藤村 幹

電話：011-716-1161

<研究組織>

研究代表機関名 川崎医科大学

研究代表責任者 川崎医科大学 脳神経外科 教授 菱川朋人

共同研究機関

北海道大学 脳神経外科 教授 藤村 幹

東北大学 脳神経外科 教授 遠藤 英徳

広南病院 脳神経外科 部長 鹿毛 淳史

東京大学 脳神経外科 准教授 宮脇 哲

東京科学大学 脳神経外科 講師 原 祥子

富山大学 脳神経外科 教授 黒田 敏

名古屋大学 脳神経外科 助教 村岡 真輔

JCHO 中京病院 脳神経外科 部長 高須俊太郎

京都大学 脳神経外科 講師 舟木 健史

国立循環器病研究センター 脳神経外科 部長 片岡 大治

近畿大学 脳神経外科 教授 高橋 淳

徳島大学 脳神経外科 教授 高木 康志

3. 資金と利益相反

この研究において、資金の受入及び使用はありません。

研究をするために必要な資金をスポンサー（製薬会社等）から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが起こりかねない状態を利益相反状態といいます。

本研究に関する利益相反の有無および内容について、川崎医科大学利益相反委員会に申告し、適正に管理されています。